

旅行とスマホ市

横浜市港北区 小川 勇（嘘月）

以前は、旅に出る時は、感じたので、地方の医科大学カメラ、ビデオ、三脚を持ち、重かった？が、今では、スマホ一台でOKだ！全く手軽！楽になった！

大学生になり旅行で、北海道の摩周湖に行き、その岸まで下りたが、沢山の蚊に取り囲まれたり、網走では、皆既日食が見えるはずだったが？曇り空で、残念！

利尻島では利尻富士に登ったが頭上だけ晴れて周囲の景色は見えなかった。でも、層雲峡では、其処に2泊して、雄大な大雪山の散策を楽しんだ！一面に雪だったかな？

又、小岩の荒木性次 ト 藤先生の塾で、漢方の講義拝聴。

電気科卒業後は、クレールのリモートコントロール機器据付で、八幡製鉄所の天井クレーンに乗ったり、大洗・東海村の原子炉の火入れ前の施設に行ったり、株式投資で学費を作り医科大学に入学、電気の関連で、心電計を使う心臓病内科に入った！でも、パワハラを

が沈んだ火山噴火の外輪山の一角かな？

現地に旅行すると、映画の映像が臨場感を持って感じられる。



古希を迎える直前に開業！

横浜市中区 内田 千代子

古希を迎える少し前に関内馬車道で開業し、ついに保険医協会に入会しました（2年前）。実は保険医協会とは以前からご縁があり、20年ほど前に保団連女性部にお招きいただき、医学生、特に女子医学生のメンタルヘルスについて講演したことがあります。医学連大会や医ゼミでも何度か話す機会があり、2024年の医学連大会では「医学生のメンタルヘルスと自殺予防、ジェンダーやマイクログレッションの克服にも注目して」というテーマで講演しました。熱心な医学生たちとの議論から、日本の医療の未来に確かな明るさを感じました。

ただでなく、医師になった時期も少し遅く、東大卒業後に東京医科歯科大学に再入学し、4年生の時に娘を出産して、2歳半の子連れで医師としてのキャリアをスタートさせました。当時はフラメンコダンサーでもあり、医学と育児と踊りが渾然一体の生活でした。娘が熱を出したり離れなかつたりする日は、やむなく大

3人目の妊娠中にコロナワクチンを接種した経験から日本でのワクチン啓発にも携わりました。内田舞の著書『ソーシャルジャスティス』（文藝春秋、2023）では、日本社会に残るミソジニーへの驚きを率直に語っています。彼女からは多くの刺激を受けています。自らのクリニックでは、ジェンダーバイアスやさまざまな偏見に敏感であることとを大切にしながら、温かな精神医療の実践を心がけています。



自由投稿



☆テーマ投稿「母の言葉、父の言葉」

母の告白

川崎市幸区 武知 由佳子

30年位前のことか。母が「あなたに謝ることがあるのよ。」と言った。目に涙が一杯で私は、何事かと身構えた。突然の母の告白であつた。

遠い記憶だが、小2の冬休みに、母の友人、その子ども8人程で上京、横浜で見学、遊び、あと上野の松坂屋で買物食事をした。その頃は特急あさまでの往復であつた。松坂屋では、その頃話題の陶器で出来たピンクのブタの貯金箱が沢山山積みになっていた。私はそれが欲しいとおねだりした。母は大きいから荷物になるからと拒否した。私は何故かそのブタに執着して、おねだりを繰り返して売場から離れない。

「食事に行くよ。」の声を、思いであつたという。我子を一瞬疑った。自分を恥じ、何も知らない私の後ろにこめんねを繰り返したと。母の心の告白であつた。

母は全身から血の気の引く重く受け止めて今日に至る。母は元気で今日も筆を教えている。



家訓？（父の言葉）

川崎市多摩区 石川 信子

“人の悪口を言うのは、天に唾する事”

必ず自分に降りかかつてくる

“禍福は糾える縄のごとし”

今大変な状況でもいつか良い時は来るので腐らず、又今が良い時であつても、ずっと続くわけではないので、鶏口となるも牛後となるなかれ”

この三つは父が口癖のよう

大正生まれの三男坊は、明治堅気の両親からいろいろ言われていたのでしょう。で、あまり心地よい旅ではなかつたのですが、流線形の車が好きて、「いつかは赤いポルシェ」と言っていたのが、相手チームを罵っていたのは、愛嬌でし

私はそれ程車マニアにはなりませんが、小さい頃から野球場やコンサートや舞台に連れ出してくれたお蔭で、今舞台の楽しみにはまっています。

鶏口にもなれず鶏後な人生ですが、お空の父は、生きてくれるかな。

